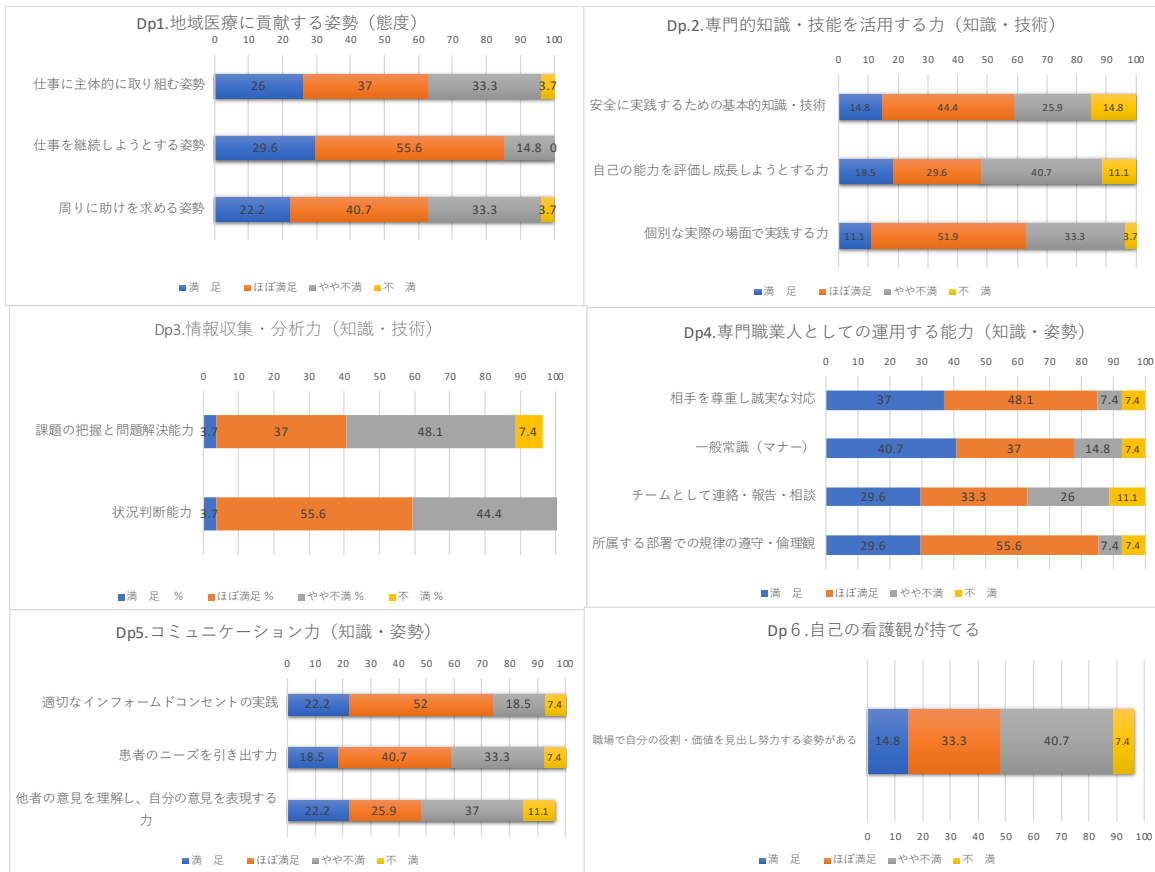




表（％）

就職先アンケートは当校の6つのディプロマポリシーに基づき構成し16の質問に変更し実施した。令和6年10月就職し半年経過しての結果である。
評価尺度は「満足」、「ほぼ満足」、「やや不満」、「不満」の4段階。

【結果】

1. 「満足」、「ほぼ満足」85％台が3項目である。

dp1 仕事を継続しようとする姿勢 85.2%は昨年より8p低下

dp4 相手を尊重し誠実な対応 85.1%は昨年同様 仕事をする部署での規律の遵守・倫理観 85.2%である。

仕事をする上での規律の遵守は昨年より7p高い。

その中での「満足」、「ほぼ満足」が37～70％台で最も低いのは

dp3 状況判断能力37% 課題の把握と問題解決能力 40.2%と昨年同様に低い。

70％台は2項目でdp4 一般常識77.7%、dp5 適切なインフォームドコンセントの実践 74.2%、それ以外は40～60％である。

「満足」、「ほぼ満足」が昨年よりも最も低下したのはdp2 自己の能力を評価し成長しようとする力 48.1%で24pの低下。

dp6 職場で自分の役割・価値を見出し努力する姿勢 44%、23pの低下である。

2. さらに昨年より12～15p低下した項目は、dp1 仕事に主体的に取り組む姿勢 63%昨年より12p低下

dp2 安全に実践するための基本的知識・技術 59% 昨年より13.8p低下

dp4 一般常識 77.7% 12p低下、チームとしての連絡・報告・相談 62.9% 昨年より12.1p低下している。

3. また「満足」の項目がつく学生は、2項目を除き全て増加している。その反面「不満」がつく学生も4項目を除き増加している。二極化が拡大している状況である。「満足」いく力をつけた学生も増えたが「不満」と捉える学生も増加。さらに全体的に能力の低下という結果が読み取れる。

どの項目も専門職として重要と捉え3年間で培った力である。

基本的知識や技術、学んだ知識から実際に対象を観察して判断すること、課題を把握し解決するために確認や相談する力は弱かったと考える。

その要因は各医療機関のコメントを見ても主体的に取り組む姿勢や必要性・重要性を感じ、努力する姿勢が培われていないと感じる。

さらに今年度特徴的なのは、7名が8月までに早期退職、2名が産休となっており、アンケート回収率が77%となっている。

「職業人」としての自覚のなさから、自分の勝手な判断と周囲への相談ができないことが影響している。専門職としてより人としての「約束を守る」「人の話を解ろうとして聴ける」という事が出来ないことも一因と考える。

【今後の指導方略】

主体性がなく言われて動くことや、周りに助けを求めない学生が増えると予測する。求められていることに到達するための方略は課題である。

「人に言われて動く」ことが当たり前と捉え、学生自身の考えや思いを受け止めながら関わっていく。職業人としての自覚をもたせることは、カリキュラム運営や個々の指導場面で意図的に関わり育成していかなければならない。学生自身に目的を明確にさせ、その目的に向けた自己啓発を進めていく動機づけが必要である。

そのためには、動機づけのためのスキルの可視化など教員の人材育成能力を高める必要がある。